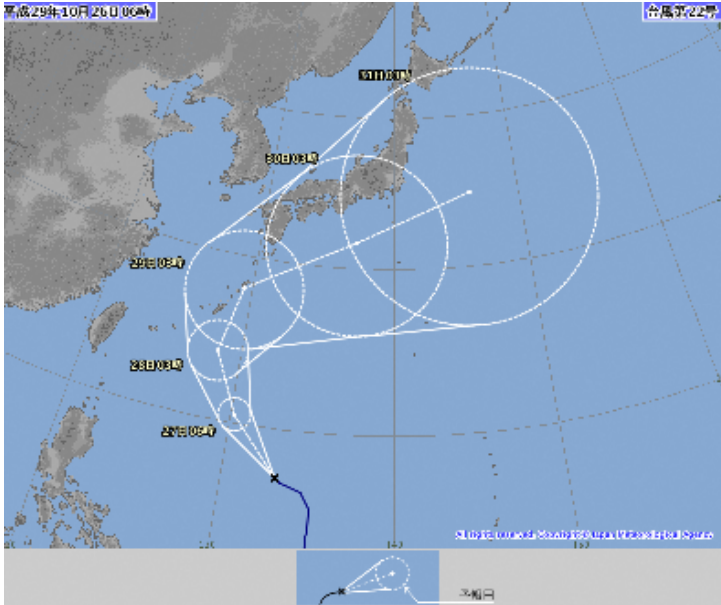


台風22号に関する農作物等の技術対策

福島県農林水産部農業振興課



(台風経路図は気象庁ホームページより引用)

台風22号が本県に接近し、風雨が強まるおそれがありますので、農作物等の風雨対策には万全を期してください。

先週には台風21号が通過し、被害が発生したところがありました。

今後の台風の情報に留意し、農作物等の管理には十分注意しましょう。

水路等が増水している場合や土砂災害等のおそれがある場合は、危険な場所に決して近づかないでください。

1 作物（水稲、大豆、そば）

- (1) 事前に、ほ場の排水対策を徹底しましょう。
- (2) 水稲の収穫作業が遅れています。台風通過後、コンバインが入れるほ場から速やかに収穫しましょう。
- (3) 倒伏したほ場では刈り分けを行い、丁寧な刈り取り作業を行うことで泥の混入が無いよう注意しましょう。
- (4) 収穫後の乾燥・調製作業は丁寧に行い、品質向上に努めましょう。
- (5) 自然乾燥の稲は籾水分を確認し速やかに脱穀・収納しましょう。

2 野菜・花き

(1) 事前対策

ア 共通

- (ア) 収穫可能なものは、できるだけ台風接近前に収穫しましょう。
- (イ) ほ場周囲に防風ネットを設置している場合は、ワイヤー・針金の緩みやネットの破損を点検し補修しましょう。
- (ウ) パイプハウスの被覆資材及び止め具（マイカ線、ビニペット等）を点検し、ビニールの破損があれば補修しましょう。
- (エ) パイプハウスやネット栽培等で支柱を使用しているものは筋交いを入れ、補強しましょう。
- (オ) 施設では、天窗や扉があおられたり風が吹き込まないように完全に閉めておきましょう。
- (カ) 雨よけのみのパイプハウスなど、簡易な施設については施設内作物の収穫を終了している場合は撤去しましょう。

イ 野菜

(ア) 露地の葉菜類や根菜類では、支柱を用いてべたがけ資材（不織布等）を浮き掛けすることにより被害を軽減することができます。その際は、べたがけ資材が風に飛ばされないようしっかりと止めましょう。

(イ) アスパラガスはフラワーネットと支柱を点検し倒伏を防止しましょう。

ウ 花き

露地栽培では、フラワーネットの張りや支柱を点検し、倒伏や曲りを防止しましょう。

(2) 事後対策

ア 共通

(ア) ネギなど倒伏したものは、茎が曲がるのを防ぐため、できるだけ早く引き起こしましょう。

(イ) 台風通過後は、吹き返しの強風に注意しながら施設等の換気を図りましょう。

イ 野菜

損傷を受けた果実や茎葉は、早急に摘除しましょう。収穫した野菜は、傷みがないか良く確認しながら調製作業を行いましょう。

ウ 花き

露地の花きは、強風により損傷を受けると病害が発生しやすいので、速やかに適切な薬剤散布をするとともに、草勢回復のために液肥の葉面散布を行いましょう。

3 果樹

(1) 事前対策

ア 現在、収穫期に入っている果樹では、強風による落果や傷害が懸念されますので、収穫可能な果実は事前に収穫しましょう。

イ ももせん孔細菌病が発生している地域では、台風の風雨の影響で感染が拡大するおそれがあります。降雨の合間を縫い、台風通過前にできる限り秋季防除を実施しましょう。

ウ 立木では、主枝などの大枝が裂けるおそれがあるので、支柱で支え、脱落しないよう枝受け部分を結束します。また、側枝は支柱等で固定すると落果を助長することがあるので、支柱等はずし風になびくようにします。

エ りんごのわい性台樹は倒伏しやすいので、支柱への結束状態を確認し、不十分な場合は補強しておきます。また、木支柱の場合は、支柱の根元が腐敗していないかどうか確認します。

オ 果樹棚（なし、ぶどう等）等の施設は、前もって点検し、強風の前にアンカー補強や棚線の締め直し等を行います。また、棚周囲に防風ネットを設置している場合は、風で飛ばされないように補強しましょう。

(2) 事後対策

ア 落果した果実は速やかに収集し、適正に処理しましょう。

イ 倒伏した樹はできるだけ早く起こし、土を盛り、支柱等で固定します。また、かん水やマルチにより根の乾燥防止に努め、新根の発生を促します。大枝が裂けた場合は、ボルトやカスガイ等で止めるか、縄などでしばり傷口を接着させます。

4 畜産・飼料作物

(1) 事前対策

ア 強風による畜舎、飼料庫、飼料タンク、堆肥舎等の損壊、及び風雨の吹き込みを未然に防止するため、屋根、扉、窓、外壁及び排水溝等の破損や亀裂等の有無を確認し、必ず補修等の応急措置を行いましょう。

イ 開放された飼料の保管場所では、乾草や稲わら等をシートで覆うなどして、雨水が

かからないようにしましょう。

ウ 堆肥舎への風雨の吹き込みにより、堆肥や汚水が流出することが心配されますので、堆肥をシートで覆うなどして、流出を防止しましょう。

エ あらかじめ停電や断水等の対応を確認し、被災時には自家発電機等による搾乳や生乳冷却等の対応ができるよう対策を行いましょう。

オ 水はけの悪い草地や飼料畑には明きょを掘削するなど、速やかに排水できるようにしましょう。特に、まだ収穫していない飼料用イネは必ず排水対策を行いましょう。

カ 収穫済みの稲ホールクroppサイレージは、速やかにほ場から飼料格納庫等へ移動しましょう。

(2) 事後対策

ア 畜舎等が浸水した場合は速やかに排水し、疾病発生予防のため洗浄と消毒を行った後、施設内の乾燥に努めましょう。

イ 滞水している草地や飼料畑は、明きょなどを点検し速やかに排水ましょう。

ウ 豪雨により草地や飼料畑で土壌浸食が発生した場合は、早めに修復ましょう。

エ まだ、収穫していない飼料用イネが倒伏等の被害を受け、回復が期待できない場合には、早急に収穫調製作業を行いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL 0 2 4 (5 2 1) 7 3 4 4

○農業振興課ホームページ：以下のURLより他の農業技術情報(生育情報、気象災害対策、果樹情報、特別情報)をご覧ください。

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

○ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>